

菅波茂・AMDA代表の話



東アフリカから中部アフリカにかけてのウガンダ、ルワンダは本来、暮らしやすい高原の国です。自然の豊かさから、ウガンダは「アフリカの真珠」、ルワンダは「アフリカのスイス」といわれています。しかし、両国は独立後、内戦が続き、国内は荒廃。ウガンダでは1986年のムセベニ大統領就任で内戦はほぼ終了しましたが、今度はエイズで働き手が次々に死んでいくという状況です。内戦やエイズで最も被害を受けているのは子どもです。戦争やエイズで親を失った孤児は、両国とも100万人以上になるとみられます。AMDAは94年にルワンダ、95年にウガンダにそれぞれ現地事務所を設置。内戦の復興、エイズ救済に協力してきました。ウガンダでは、アフリカをアフリカ人自身が救おうとウガンダ医師会が結成を決めた「アフリカ多国籍医師団」の活動にも全面協力しています。毎日新聞の今年のキャンペーンではネパールに子ども病院がつくられることになりました。今年も、ウガンダで目に見える成果を期待しています。

孤児は200万人以上

ウガンダ ルワンダ

看護婦や助産婦が診療に当たる。

AMDAは

建設を知って他の地域からも、協力の要請が来ている。日本人にこの国の現実を知ってもらい、効果的な援助をしてほしい」と語る。

また、アフリカ教育基金の会(AEF、本部・北九州市)はブクヤという小さな町で、エイズ孤児の養育費や学費を援助、週1回現地の医師、看護婦での巡回診療を行っている。日本政府も、今年3月、カンパラに大使館を開設した。

AMDA

ウガンダのエイズ患者救済のため、日本のNGO(非政府組織)などが積極的な活動を始めている。今回のキャンペーンで国連機関への寄付に加え「目に見える援助」として支援するもの、こうしたプロジェクトだ。

アジア医師連絡協議会(AMDA、本部・岡山市)

は1995年4月、ウガンダ事務所を設置。昨年12月には、半農半漁の村・ゴグエに250万円をかけて診療所を建設した。内科、外科、産婦人科に歯科治療も可能。医師は近くの町から週に1回程度、巡回。普段は

薬も供給。1時間以上も歩いて、医師の診療を受けに来るエイズ患者もいる。また、ケニア国境に近いトゥバ村でも、エイズ孤児の救済などで現地NGOから協力を要請されている。

同事務所のマンボ所長は「AMDAの活動はまだ緒に就いたばかり。診療所の